

うたごよみ

曾於文藝

「題字」

末吉文化協会会員
瀬戸口 淳民氏

俳句

末吉俳句会

松の内に迎ふる夫の誕生日

古藤 美奈子

安産を願ふ絵馬あり春隣

前原 悌子

冬霞 神話の里を包みなり

宮路 生大子

千草俳句会

境内の空晴れわたり冬の鳥

川辺 良彩

神苑の一樹に群るる冬の鳥

福嶋 武子

紅梅の枝にもみくじ白々と

千田 茂子

大隅俳句会

冴ゆる夜里山深く鳥の鳴く

穎娃 晴美

座布団を先ず正しけり筆始

鍋山 美智子

味噌あじを嫁に誉めらる雑煮かな

岩重 みどり

短歌

末吉短歌会

大粒の涙流して絵本聞く

幼に銃を取らす日なけれ

大森 澄子

小鳥と笑ひ犬と語りて猫と眠る

正月三日かくして終はる

長倉 佳津子

参道に初詣の人ら並びあて
晴着の肩に風花の舞ふ

宝蔵 弘二

大隅短歌会

送迎車のミラーに写るわが顔の
他人のごとくわれをみつむる

吉崎 フサ子

熱々のかますの塩焼き届きたり

朝餉の時を知るがごとくに

鮫島 由美子

古米三俵一万円ナリと売られる

色鮮やかな柿と並べて

加塩 秀子

財部短歌会

冬陽浴び梅ぼつぽつと花咲かせ
手折るも惜しく佇み見守る

永岡 冴子

罪も無き人を殺めるテロ行為

許しがたきはイスラム国なり

川俣 若

うき病どこまでわれを追ひつめる
今度はカテーテルで壁作りたるぞ

橋口 貞男

薩摩狂句

にがごい会末吉支部

こら美味め 餅が湯気とみ
重箱で訪問つ 森山 厚香

鰯夫所帯 友の訪問いで 浜田 一好

元氣付つ 被災者しえ訪問い 鈴木 一泉

膝す折つ 被災者しえ訪問い 鈴木 一泉

両陛下様 被災者しえ訪問い 鈴木 一泉

友し訪問つ 久振い言どん 桐野 奈世

誰いけ言つ 久振い言どん 桐野 奈世

大隅薩摩狂句会

犬と猫 小路ぞ脇見て 山田 竜生

擦い違ごつ 小路ぞ脇見て 山田 竜生

按摩機も 仕事か辛えち 津留 群志

駄々ずくろつ 仕事か辛えち 津留 群志

世界中が 青色ひとち 福元 多喜子

晴れ上がつ 青色ひとち 福元 多喜子

後継つが 作いブームん 小倉 りんりん

外国ん野菜 作いブームん 小倉 りんりん



県下一周駅伝大隅中継所で太鼓演奏を披露する輪光保育園の皆さん